

大学生の進路選択における自己決定性のレベルに及ぼす影響についての研究 ～ソーシャルサポートとの関連性の観点から～

スポーツ経営組織学ゼミナール 1316006 伊藤 康平

1. 研究動機・研究目的

青年期の進路決定は人生の天気であり、進路選択は青年にとって大きな課題である。こうしたキャリア選択の問題解決への取り組みにおいて、近年注目されているのが、キャリア選択における「やりたいこと志向」である。萩原・櫻井（2008）は、大学生のキャリア選択における「やりたいこと探し」の動機を、自己決定理論の観点から明らかにしている。しかし、自己決定性レベルに与える影響に関連した研究は散見される程度である。以上を踏まえ、本研究では「やりたいこと探し」の動機を構成する3側面である自己決定性レベルに影響を及ぼす影響を、ソーシャルサポートとの関連性から検討する。

2. 研究方法

本研究では半構造化インタビューによって、自己決定性レベル毎のソーシャルサポートの特徴を明らかにすることを目的とする。そのため、まず予備調査として、アンケート調査を実施し大学生の自己決定性レベルの算出を行った。調査対象は、すでに就職活動を終え、体育会系の部活動に所属している大学4年生100名である。調査内容は、質問調査法として「やりたいこと探し」の動機尺度を使用した。次に本調査として、インタビュー調査を実施した。調査対象は、事前に行ったアンケート調査の各因子である、自己充足志向、社会的安定希求、他者追従の3つのレベルで、それぞれ得点の高い男女1名ずつの計6名である。調査内容は、調査対象者がソーシャルサポートの在り方によって自己決定性レベルがどのような影響を及ぼしていたかがわかるような質問をそれぞれ提示した。

3. 主な結果と考察

自己決定性レベルに影響を及ぼすソーシャルサポートとして、自己充足志向は、励まし、就活スキル、目標、相互扶助、行動促進環境、心の支え、自己肯定、将来設計、生活的援助。社会的安定希求は、就活スキル、相互扶助、声かけ、強制、生活的援助。他者追従は、就活スキル、同調、生活的援助、情報提供が存在することが明らかとなった。以上のことから、自己決定性レベルに影響を及ぼす要因として、新たにソーシャルサポートの重要性が示唆された。また、本研究で示された自己充足志向レベルの人のソーシャルサポートを意識的に受けることで、進路選択においてポジティブな効果をもたらす自己充足志向レベルへと移行することが可能なのではと考えられる。

4. 結論

本研究は、体育会系の部活動に所属する大学生の就職活動時期の自己決定性レベルに及ぼす影響をソーシャルサポートの観点から明らかにすることを目的として、既に就職活動を終え、体育会系の部活動に所属している大学4年生を対象としたアンケート調査とインタビュー調査を実施した。大学生の進路選択における自己決定性レベルに影響を与えるソ

ーシャルサポートとしては、自己充足志向については、先輩による①励まし、②就活スキル、③目標、同期による④相互扶助、⑤行動促進環境、両親による⑥心の支え、⑦自己肯定、⑧将来設計、⑨生活的援助がある。社会的安定希求については、先輩による①就活スキル、同期による②相互扶助、両親による③声かけ、④強制、⑤生活的援助がある。他者追従については、先輩による①就活スキル、同期による②同調、両親による③生活的援助、学校による④情報提供が存在することが明らかとなった。以上のことから、自己決定性レベルに影響を及ぼす要因として、新たにソーシャルサポートの重要性が示唆された。また、大学生の進路選択における 3 つの自己決定性レベル毎のソーシャルサポートの特徴が示され、進路選択においてポジティブな効果をもたらす自己充足志向に効果的なソーシャルサポートの在り方が明らかとなった。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆に携わっていただいた方々に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。卒業論文の執筆を終え、はじめて大学生活の終わりを実感しました。と同時に、お世話になった順天堂大学への感謝の気持ちが湧き上がってきました。この 4 年間で本当に多くのことを学ぶことができ、これからの人生に大きく影響を与えたと感じています。卒業論文では、大学 4 年間の集大成ということで、自身の研究したいテーマをしっかりと研究し、論文としてまとめることができ、とても満足しています。順天堂大学での 4 年間の糧に次のステップへと進んでいきたいと改めて強く思いました。